

実需者提携米取組み生産者の皆様へ

## 『実需者提携米通信』No.3号

### 実需者提携米栽培管理のポイント（7月）

6月は気温・日照時間ともに高く推移したことから、全体的に稲の生育は進み、4月25日移植の「ちほみのり」「萌えみのり」「とよめき」については、7月中に出穂期をむかえます。昨年度、特に被害の多かった斑点米カメムシ類の防除については注意が必要なタイミングです。圃場をよく観察し、高品質・高収量に向けた最後の仕上げ防除を行いましょう。

また、米穀情勢については、新型コロナウイルスによる外出自粛等の影響により、現在も業務用米の消費減退が続いています。収穫の秋に向けて今一度、10a当たりの収入確保のために、収量の確保を重視した肥培管理の徹底をお願いします。

品 種	目標穂数		出穂期
	1株当たり	m <sup>2</sup> 当たり	
ちほみのり	30本/株（50株/坪植え）	450本/m <sup>2</sup>	7月10日頃
萌えみのり	30本/株（50株/坪植え）	450本/m <sup>2</sup>	7月16日頃
とよめき	25本/株（50株/坪植え）	370本/m <sup>2</sup>	7月16日頃
あきだわら	20本/株（60株/坪植え）	350本/m <sup>2</sup>	（幼穂形成期） 7月16日頃

※4月25日植えの場合の出穂期の目安

※「あきだわら」の出穂期は8月10日頃の予定

#### 1. 後期追肥（出穂前後～穂揃期）の施用

多収品種は、出穂期以降も高い吸肥力が持続するため、生育後半も窒素栄養の維持が必要になります。

特に高温時に出穂期の葉色が低下しすぎると、光合成能力の低下を招き、登熟歩合や千粒重の低下に繋がります。そのため、全量元肥一発肥料を施用していても、出穂期に葉色の低下（SPAD値35、葉色板4）がみられる場合は、後期追肥（出穂前後～穂揃期）の施用を行いましょう。

## 2. 病虫害防除

### (1) 斑点米カメムシ類対策

出穂期前後の畦畔除草は、カメムシ類を圃場の中へ追い込んでしまうので、出穂期2週間前までに畦畔除草を済ませましょう。

また、薬剤による防除は、成虫飛来期である「穂揃期」と侵入した斑点米カメムシ類の成虫が産卵した卵から幼虫が孵化する「乳熟期（出穂期15日後頃）」が散布の適期です。圃場をよく観察し、適期散布で薬剤の効果を引き出し、収穫物の品質向上に努めましょう。

薬剤名	使用量	使用時期	使用回数	備考
スタークル粒剤	3kg	7日前まで	3回以内	湛水状態で散布
キラップ粒剤	3kg	14日前まで	2回以内	湛水状態で散布
MR. ジョーカーEW	2000倍	14日前まで	2回以内	

### (2) いもち病、紋枯病対策

多収を目指し、多施肥栽培にすると「いもち病」や「紋枯病」が発生しやすくなります。近年、「紋枯病」の発生が多く散見されますので、特に前年に発生した圃場については、本田防除を行いましょう。

薬剤名	適用病害	使用量	使用時期	備考
ブラシン粉剤DL	いもち	3~4kg	7日前まで	予防・治療
バリダシン液剤5	紋枯	1000倍	14日前まで	治療
オリブライト1和粒剤	いもち・紋枯	1kg	出穂10日前まで	予防・治療

**★適切な追肥と仕上げ防除で品質確保に  
努めましょう！**

以上